慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	昭和49年度東洋史専攻活動報告；東洋史旅行・ 千葉県岩井海岸；大学院研究会発表；香港中文大学・ 陳荊和先生講演会；東洋史大学院主催による松本信広名誉教授喜寿祝賀会；香港大学・ 香港中文大学・ の東南アジア史研究者：鄭徳坤,饒宗頤教授以下五名の来塾歓迎会；学事振興資金による「西南中国における漢化の過程」についての共同研究；大学院修士課程；昭和49年度東洋史専攻四年卒業論文題目；西洋史専攻修士論文；西洋史専攻卒業論文(学部)
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1975
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.47, No.1/2 (1975. 12) ,p.162- 167
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19751200-0162

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

をたどるとともに、仏教史との関連において経塚がいかに変遷したかを詳しく論じているのである。

さらに特記すべきは、資料としてあわせ提出されている八冊の図版は、まことにぼう大且つ貴重な資料であり、これのみにおいて、すでに大きな学術的価値を認めることができる。

ただ著者の努力が未だ及ばざる部分のあることもまた当然であって、たとえば経塚が造られる名山の嶺について、神が高山に天降りするという古代日本人の強い信仰を想起する時、さらに民族学的な研究が加えられることを期待したいのである。またさきに触れた収集資料とくに美術的価値の高い資料について、前編の本論中にはあまり考察が示されていない点が指摘されるかもしれぬ。しかし、これは後編一資料編において解説と検討が加えられていることを付記すべきであろう。

従って著者がぼう大な資料を収集し、厳密かつ穏当な解釈を加え、多岐にわたる経塚研究の前進に新らたな歩を踏み出したことは、学界に寄与するところがきわめて大きいと云わざるをえない。よって著者に文学博士の学位を授与する価値あるものと認める。

昭和四十六年二月十日

主　査　慶応義塾大学文学部教授
文学博士　国史学担当
清　水　潤　三

論文審査担当者　副　査　慶応義塾大学名誉教授
ドクトル・エス・レットル
東洋史学担当
松　本　信　広

副　査　慶応義塾大学名誉教授
文学博士　美学美術史担当
守　屋　謙　二

昭和49年度東洋史専攻活動報告

二年新入生歓迎会　於　アルカディア
五月七日㈫四時二十分〜

東洋史旅行・千葉県岩井海岸
六月四日㈫〜五日㈬

大学院研究会発表

㈠六月八日㈯　午後一時〜四時、一〇五番教室
小野知多　太平天国の天京における女館制度
武者　章　殷の王族に於ける『子』の位置
荒川　研　人民公社史と中ソ論争

㈡六月十五日㈯　午後一時〜四時、一〇五番教室
小見山春生　秦漢時代の人的結合組織から見た陳勝の乱について
藤井俊明　前漢の内朝制について

鈴木正崇　『古事記』にあらわれたるアオの観念について

香港中文大学・陳荊和先生講演会

「大越史記全書の成立」

七月十二日(金)　午前十一時～午後二時

於　B会議室

東洋史大学院会主催による松本信広名誉教授喜寿祝賀会

十一月九日(土)　午後六時～九時

於　アルカディア

香港大学・香港中文大学・の東南アジア史研究者―鄭徳坤、饒宗頤教授以下五名の来塾歓迎会

十一月二〇日(水)　午前十一時～午後二時

学事振興資金による「西南中国における漢化の過程」についての共同研究

(一)十二月二十六日(木)　木午前十一時～午後二時

於　B会議室

伊藤清司　西南中国の少数民族の漢化

(二)三月十一日(火)　午後三時～　於　B会議室

可児弘明　最近発見せられたる香港の善堂文書について

和田博徳　清代土司の漢化過程――容美土司と改土帰流

(三)四月五日(土)　午後一時～六時

木村宗吉　十八～十九世紀のソンクラー

近森　正　銅鼓の社会

《大学院修士課程》

瀬良重夫　ソロモン群島レンネル島における DISTRICT の形成

山城喜憲　「北戸録」について――その書誌学的研究

李　柏如　度朔山伝説から見た歳旦抜除の習俗――特に梁・葦の信仰と神荼鬱KKの由来について――

昭和49年度東洋史専攻四年卒業論文題目

江本　由里　アンコール王朝期の祖先崇拝について

佐々木行夫　「アラブ反乱」――アラブ民族運動の歴史的限界

中田信一郎　龔白珍における仏教―仏教帰依の動機とその意味―

松代　佳子　北魏洛陽初期仏教の諸問題

小林　雅直　「盤古神話」考

阿部　照義　安史の乱と節度使の軍閥化

岩波　豊明　竜江船廠に関する基礎研究

彙　報

大内　恵介　春秋時代の楚国の県の性格について

小沢　彰　十五世紀後半のモグーリスターン
——明朝との交渉を中心として——

郭　幸枝　清末福建省華僑の出国原因について
——とくに福州幇に関する一つの問題提起——

梶川　恒夫　開元天宝時代の政治の特質

加藤富士夫　十七、八世紀フィリピン華人カピタンの特性について

金　俊　秀　慶州路西里壺杆塚出土の木心漆面に見られる巫俗的要素

古川　学　インドにおける一八五七年反乱の一分析

渋谷　京子　海運発達の中国女子移民に及ぼしたる影響——旧海峡植民地への中国人女子移民の増加を探る——

田村　健　オスマン・トルコ帝国の兵制——特にイェニ・チェリ制についての若干の考察

津久田良介　十九世紀末の中国茶業衰退に関する一考察

土屋　啓一　北朝後期の崔氏について——没落の内因をめぐって——

徳田　紀子　潘周稹（Phan chu Trinh, 一八七二—一九二六）
——その思想と活動——

西川　安行　フランス統治下におけるベトナム抵抗運動の変遷に関する基本的考察

原　亮子　黄巾の乱と後漢王朝

森川　孝典　遊牧アラブのイスラムへの対応
——リッダ期までを中心として——

小林　和也　葛洪の隠逸——抱朴子の内外篇を通じて——

江崎まゆみ　辛亥革命期の山東の独立運動
——その不徹底性の原因に関する考察——

池田　年穂　インド不可触賤民の地位向上運動におけるアンベドカールの役割——マハード・サティアグラーハを中心として——

北原　尚　マムルーク朝下ダマスカのウラマーについて
——イブン・サスラーの年代記よりみる——

小池　浩史　常勝軍の成立について——ウォード活躍期の上海——

鈴木久美子　「征婦吟曲 Chinh phụ ngâm khúc」の歴史的意義——段氏、Đoàn-thị-Điểm 点の生きた時代——

中里　雅子　十九世紀香港におけるミッションスクールの発達とその社会的役割

増田恵美子　東亜における影絵人形劇の比較研究

藤森　道也　中仏安南条約の意義とベトナムの華僑についての概観

《通信教育課程》

井上　峰子　穂落神伝承の一地方型について

河合　利近　清末の梁啓超の教育観について

箕浦　末子　晋代における塢集団の崩壊過程についての一考察

西洋史専攻修士論文

三上　朝造　一二世紀のフマニスムス――シャルトル学派とその周辺――
西川　隆明　クリュニー初期改革
島村美恵子　ヴォルテールと文明
竹井久美子　フロラのヨアキムの歴史観とその中世的意義
横山　協子　ジョン・ハイアムとアメリカ史

西洋史専攻卒業論文（学部）

宅野　法子　メッテルニヒ――体制安定の操作者――
鹿島　若菜　プロイセン農業改革
金田　茂子　ダニエル・オコンネルとアイルランドのナショナリズム
西村みさ子　イギリス議会政党の初期発生段階に関する一考察
藤田　葉子　イギリス議会政治における名誉革命
宮井　憲二　マックス・シュティルナーの思想
遠藤　常雄　マックス・ウェーバーにおける資本主義の「精神」
佐々木繁治　マックス・ウェーバーにおける認識の客観性
布施　俊郎　ロシア・サンディカリズムについて
北古賀竜太郎　アウグスティヌスの秘蹟論と聖職秩序について
斎藤　全彦　コリングウッドの歴史的思考について
寺尾美樹子　パレスチナにおけるテル発掘の先駆者達
茂木　恵子　一六四九年におけるアイルランド侵略
清水　祐司　チャールズ一世治世下の治安判事
今井　昭夫　ヘンリー二世と国政
菊地佳代子　エリザベス一世の人間像
福井　和子　イギリス宗教改革と中産階級――トマス・クロムウェルを中心に――
加藤　秀子　一六・一七世紀のロンドンの発展と冒険商人組合
米村　優子　カタリ派異端について
加藤　純一　一四世紀イタリアの社会経済
関　百子　ブルトマンの歴史神学
吉田　光夫　ビザンツ帝国と封建制について
山田　雄一　聖ベネディクトゥスの修道戒律について
三室　有久　ドイツ三月革命の歴史的影響
星　和彦　トーマス・マンヒドイツ前期ロマン派精神
竹内　裕子　ホイジンガの文化論
広田　茂幸　中ソ対立について
池田　美砂　スペイン戦争と列強
山越　裕子　英国第二次労働党内閣の外交政策
角田　雅子　大恐慌以後のドイツ経済界の動向
大橋　洋子　ヒットラーの反ユダヤ主義
佐藤　豊光　米ソ外交交渉姿勢について
森川　再子　A・J・P・テイラーの「第二次世界大戦起源」について
三村　和子　ナチズムの思想的脂景
小沢富士男　共同体理論について

大学院修士課程　国史専攻

沼ノ平遺跡の石器の研究　阿部祥人
轟文化の再検討　岡島格
紀伊国阿氐川庄を中心として鎌倉時代の「地頭の非法」を論ず　牧田敏志
慶喜の宗家相続事情の研究　枝康博

学部　国史専攻

所謂瀬戸内先土器文化圏における石器製作技法について　山下秀樹
律令国家と儒教思想　赤羽根行雄
古事記偽書説をめぐって　高木みどり
海幸・山幸神話の構成　田中満
行基に関する一考察　名倉満子
奈良時代の優婆塞貢進について　小杉文子
古代の仏教統制機関について　小林芳徳
平等院鳳凰堂の研究　細井芳信
摂関時代における女性の歴史的役割　内山美佐子
人麻呂殯宮挽歌　清水薫
摂関期における浄土思想の一考察　西川千春
千利休とその茶道　知久和子
小堀遠州とその茶道　青木雅子
黒田庄の悪党について　下田幾子
武田流軍法について　山口隆雄
近世初期人改における夫役と役家について　西川俊和
御伽衆について　山原俊枝
武士団の発生に関する一考察　石井由美子
六郷周辺における後北条氏権力の構造　高野朋子
婿取式婚姻から嫁取式婚姻へ　松本明子
封建制成立期における主従関係について　村井春美
切手郷に関する諸考察　下山恵美子
イエズス会の日本布教方針　金田充代
スペイン船渡来年次について　石田照子
スペイン系諸修道会士の日本布教に対する否定論の変遷とその背景　柳田利夫
江戸町人の根の世界　茜谷真知子
安藤昌益――自然と人間――　藤原三代子
研空史よりみた民間信仰の性格　岸本正
杉本茂左ェ門の直訴事件　内田雅美
江戸時代武士の家族制度　木村恭子
文政四年前橋藩越訴未遂事件を巡って　篠原典子
二宮尊徳と報徳仕法　内田理恵子
川崎市域における脇街道　宝樹永憲
肥後藩宝暦の藩政改革について　松居徹
日米交渉について　石田明
侘茶について　神保則子

近世村落の同族組織　橋本多加子
明和伝馬騒動の研究　千葉陽子
徳川家康による仏教統制　加門卓子
下関と長州藩の政争　田中英治
坂下門事件にみる草莽　深津和美
慶応三年東海地方におけるお札降り騒ぎについて　中川泰子
大岡忠相の防火対策について　岡崎和夫
寛政改革における札差仕法改正について　榛葉恭子
幕末の宇都宮藩と県六石　大島一郎
薩英戦争と文久政変における薩藩　後藤好子
中山道熊谷宿の助郷について　宮本治子
大久保長安事件に関する一考察　雨谷明子
中世社会における真宗教団と民衆　森本博美
石川数正出奔事件について　赤沢道子
将軍継嗣問題について　友松尚子
福沢諭吉の女子教育論　鈴木千佳子
宣長学の普及について　朝倉信子
明治初期における社会主義思想の研究　中田敏明
吉野作造について　福岡直美
米騒動と新聞報道禁止を巡って　岩元隆明
中江兆民の思想　宮本義巳
明治初期の新聞と民権運動について　杉浦律子
秩父事件について　愛沢仁枝
青鞜社と女性解放運動について　工匠雅子
アヴァンギアルド詩運動議論　柿崎秀子
通信教育課程　国史専攻
北海道官有物権下げ事件についての一考察
——主として道民（函館区民）の動向をめぐって——　寺西康二
江戸時代におけるキリシタン弾圧の背景
——貿易との関係において——　永芳艶子
勝・西郷会談の意義　高島節子
東山文化の発生——同朋衆の果した役割——　蓼沼めぐみ
木挽町の変遷　山田さだ子
織豊政権における宇喜多氏の諸問題　矢野久栄（尾関）
庭園史上に於ける遠州
——その庭園文化史的考察——　城俊行
二・二六事件の背景　神谷茂晴
大阪都心四区の人口動態
——その通勤・通学について——　唐谷寛晴
尼崎市における公害問題
——特に大気汚染の人文地理学的考察——　塚本美保子